

# 令和元年度 多治見市立 共栄小学校 学校評価結果

学校の教育目標	なかよく かしこく たくましく			
経営の重点	学力づくり 心づくり 体づくり ～学力を伸ばし、社会力を鍛え、感動する力を引き出す～			
市の力点	評価の観点	自己評価	成果	課題
【学校経営】 子どもに軸足を置き、信頼される学校づくりに努める	①本校の教育目標や「ありがとうがとびかう学校」～感動づくり・共感づくり・所属感づくり・緊張感づくり～を意識した教育活動が行われ、成果をあげたか。 ②教職員が心身ともに健康でやりがいのある学校経営となっているか。 ③学校は、子どもが安全で安心して生活できるような指導し、その環境づくりに努めているか。 ④学校は、学校だより、行事等を通して地域に開かれた学校づくりに努めているか。	B	○11月ごろにSNSのトラブルが深刻化をしている状況を踏まえて、6年生対象に情報モラルの講演会を実施できた。 ●学校報や行事を通して、地域の方に学校に関わることを発信したり、メールなどを使って情報提供したりすることができた。 ○困ったことや1日であったことなどを何でも話しやすい職員集団であった。 ●職員の小さな変化に気付いたときに声をかけるなどの細やかな気配りがあった。 ○6期の教育計画をもとに、三部会の場で全職員で取り組むことを確認してきたことで、目標に向かって学年(学級)経営する意識が高まった。	▲働き方改革に向けた具体的な行動目標を定め、働き甲斐のある職場づくりをさらに進めていく必要がある。 ※児童の成長に合わせた指導は大変なことである。児童は教師を見て育つ。その観点から、6年間を通しての指導を考え自信をもって職務に当たってほしい。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける	①「分かった。できた。という喜びのある算数教育～児童の主体的・対話的で深い学びを育む学習指導を目指して～」をテーマに、全校研究会・ブロック研究会を中心に研究を進めることができたか。 ②「分かった。できた。」実感させる授業を目指して、主体的な学びを促す課題設定・聞く側に視点を与えた交流活動など、主体的・対話的で深い学びを意識した工夫や指導改善ができたか。 ③ICT活用をするなど、特別な支援にかかわる組織的・計画的な研修がされていたか。	B	○市課題研究発表を目標として意識して指導することができた。その結果、児童が自信をもって交流する姿が増えたり、仲間と学習することの楽しさを感じたりする姿が増えた。また、教員として自己のスキルアップを図ることができた。 ○児童の主体的な姿のとらえが明確になり、目的を明確にもった対話的な学びの基礎ができてきた。 ○支援員配置表の裏面にある情報提供が、教育相談を進める上で参考資料として役立った。	▲基礎学力の定着という側面から、児童の国語力(読解力)を高めていく必要がある。 ▲今年度新たに始めた「ふり返り」の活用の仕方、及びコース別学習の在り方をさらに考えていく必要がある。 ▲「できた」とともに「できる努力をする」児童を認め、がんばることに喜びを感じられる児童を目指す必要がある。 ▲学年に応じた段階的なグループ活動の指導を行っていく必要がある。
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する	①授業の構えづくり(もちもの・あいさつ・姿勢)の意識を高めることができたか。 ②授業に自分から進んで参加する(80%以上)など、「わかった」「できた」と実感できる授業づくりをすることができたか。 ③はきはきじっくりの時間を基礎的・基本的な力を定着させるために計画的に取り組むことができたか。 ④家庭学習の習慣を身に付け、授業と連動した家庭学習に取り組ませることができたか。 ⑤聞き方話し方のステップ表に照らし合わせ、児童がレベルアップすることができたか。	B	●準備OKカードでチェックをする期間を設定したことで、学習姿勢や持ち物に対する意識化を図ることができた。またその結果として、自分のために勉強を頑張ろうとする児童が増えた。 ●「はきはきじっくり」を学習内容と関連付けることで児童の意欲的な姿を引き出すことができた。 ●家庭学習の内容をドリル中心から個の学力に応じた内容に工夫することができた。 ○聞き方話し方の段階的な指導を通して仲間の話や考えを聞く姿勢が身につけてきた。仲間との考えの違いにも気付いて発言することができるようになってきた。	△自主的に学習に取り組むこと仲間と協働で学習に取り組む姿に弱さがある。取り組む過程を価値づけ、取り組み続ける良さを味合わせる必要がある。 ▲宿題を提出しない子、明らかに答えを写している子等への声かけは繰り返して行ってきたが、なかなか改善されない。宿題の在り方も含めて考えていく必要がある。 ▲家庭学習の習慣が身につけていない児童がいる。家庭と連携し指導していく必要がある。 ▲聞き方話し方について意識を高めることはできたが、個人差が大きい。クラス単位での評価だけでなく個人内評価を取り入れる必要がある。
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる	①自己を見つめ、他に感謝をし、仲間とともに高まろうとする心を育てる工夫ができたか。 ②道徳の授業において、ねらいを明確にし、話し合いを焦点化したり考えを深めたりする発問の吟味・評価の蓄積などを行うことができたか。	B	○道徳計画訪問をきっかけとして、議論する道徳授業の在り方について全職員で考えることができた。	▲考えを深めるための発問の吟味が十分ではない。事前の教材研究をもっとしっかりして、ねらいを明確にした授業を心がける必要がある。 ▲新しい教科書となることを踏まえ、年間計画・別葉の作成に取り組んでいく必要がある。
【小学校外国語活動】 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	①積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿をめざし、その楽しさを体験できるように指導方法や指導計画を工夫改善できたか。	B	○専科教諭の指導により、児童にとって充実した時間となっている。 ○歌やチャッツなどを取り入れ、児童にとって楽しいと思える活動を工夫することができた。	▲専科教諭に任せてしまうことが多かった。専科教諭の指導から学ぶことを大切にしていきたい。
【総合的な学習の時間の指導】 探究的な活動を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる	①体験活動と言語活動を設定した探究活動を充実させた総合的な学習に向けて、指導計画を工夫改善することができたか。	B	○地域人材との連携を深め、特色ある活動を実践することができている。	▲来年度、15時間増える。今ある内容を充実させるか、プラスさせるか現在の学年で検討をする必要がある。 ▲地域とのつながりを一層充実させていく必要がある。例えば、3年「地域を知る」、4年「地域の環境」、5年「地域を支える人」6年「地域から世界へ」が考えられる。
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる	①児童会活動(委員会活動・なかよしグループ)や学級活動を通して、子どもたちがよりよい人間関係を築くことができたか。 ②子どもたちが自発的に自治的な活動を行い、自信と誇りをもつことができるように学年学級の経営の充実を図ることができたか。 ③もくもく掃除(50%達成)などの活動を通して、学校や学級のために仲間と働くことの意義や大切さを感じることができたか。	B	○「もくもく掃除」に取り組んだことで、主体的に清掃活動に取り組む児童が増えた。	▲今後も「もくもく掃除」をさらに充実させ、どの児童にも達成感を味わわせる指導に力を入れていく必要がある。 ▲トイレ掃除がうまくできない。担当の教師だけでなく学年で見届ける体制をとる必要がある。 ▲なかよしの活動には喜んで参加しているが、仲間とのつながりは薄いとを感じる。各学年の役割を明確にし、活動のさせ方を考える必要がある。 ▲委員会は、単なる当番活動にとどめるのではなく、その活動を通してよりよい学校づくりをしていくという意識化を図っていく必要がある。
【生徒指導】 共感的な理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる	①さわやか挨拶(10～30%達成)など、生活づくり仲間づくりの意識を高めることができたか。 ②子どもは失敗を恐れないで挑戦しているか。(児童の自立) ③子どもはちがう立場や考えも理解し折り合おうとしているか。(児童の共生) ④子どもは、仲間が自分のよさを理解していると思っているか。(児童の自己肯定感1) ⑤子どもは自分への小さくても確かな自信をもっているか。(児童の自己肯定感2) ⑥日常のわずかな変化を見逃さないで、積極的な教育相談を行うことができたか。 ⑦不登校や問題行動に対して、全職員が危機意識をもって早期発見・早期対応に努めることができたか。 ⑧いじめ防止基本方針に基づいて、全職員で未然防止・早期発見・早期対応に取り組み、効果をあげているか。	B	○委員会活動の核となる活動を通して、「あいさつボランティア」に積極的に参加できる児童が増えてきた。 ●様々なタイプの児童がクラスに在籍していることを踏まえ、子に応じた生徒指導を充実させてきたことで互いに理解し寄り添い認めることができる児童が増えてきた。 ○昼の放送を活用した生徒指導主事の話は、児童が今取り組むべきことや学校の安全・安心にかかわって方向性を全校で共通理解することにつながり、その結果として全職員による積極的な生徒指導の充実につながった。 ○ハートフル週間で児童ひとりひとりと向かう機会を意識してつくることができた。 ●「ハビボカの虹」の取組を全校で意識して取り組むことができた。今後も互いを認め助け合う気持ちを高める指導に努めていく。 ※学校内でのあいさつは元気に大きな声でできている。	▲仲間の発言に対して心無い対応をする姿が一部にみられる。SSTやエンカウンターなどを意図的に位置づけ、よりよい集団を形成することに努めていく必要がある。 ▲いじめアンケート後に、教育相談を充実することを目的に、朝活を1週間読書にするなどの工夫をしていく必要がある。 △自分本位の行動が目立つ。誰かのために良いことを率先して行動する姿を高めていきたい。 ※地域における挨拶がまだ十分ではない。また、下校の仕方を安全面の観点から指導する必要がある。
【進路指導】 自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる	①キャリア教育の視点を取り入れて体験活動や教科指導などを計画し、実施することができたか。	B	●高学年を中心に、各教科指導の中でキャリア教育の充実に取り組んでいく。	△キャリアパスポートの活用が始まる。その指導方法の研修を行い指導法の共通理解を図る必要がある。
【健康教育】 「子どもの健康・体力づくりたじみプラン」を踏まえ、運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を送る態度を育てる	①命を守る訓練や不審者対応訓練、児童引き渡し訓練などを通して、自分の命は自分で守る態度を育てることができたか。(自分の命を守る子100%) ②児童の体力の実態を把握し、体力向上に向けた指導計画をもち、実践することができたか。(外遊び奨励・朝運動の計画・体育の体づくり運動など)	B	●学級遊びの計画的な実施に加え体育委員による全校への呼びかけを通して、積極的に外にでて体力増進に取り組む児童が増えてきた。 ●共栄小の準備運動が統一され、基礎体力作りに対する意識が高まってきている。	△児童の健康という観点から、エアコンの適切な使用について検討する必要がある。
【特別支援教育】 「インクルーシブ教育推進プラン」を踏まえ、一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる	①一人一人の教育的ニーズを全校体制で理解し、具体的に指導することができたか。	B	●別室登校指導教員、ほほえみ相談員、キキョウスタッフの支援により、個別に支援を要する児童に対する指導・支援が充実してきている。 ○特支コの適切な支援員配置がなされている。また、支援員配置表の裏面にある資料により教育相談や特別支援教育の効果的な研修が実現している。 ●主幹教諭を中心に、SC,SSW,子ども支援課、子ども相談センターとの連携が充実している。	▲通常学級に在籍し学級での学習が難しく不適応を起している児童が増加傾向にある。今後自情学級の対象になりそうな児童に対し、自情学級への通級体験等の実施を検討していく必要がある。 ▲個別の支援を必要とする児童が多い。集団での学習に困難さがある児童への手立てを工夫し、自立へつなげる指導をしていく必要がある。

評価欄の記号 A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である ※は学校関係者による評価内容